

自然災害伝承碑

「天災は忘れた頃来たる」は、物理学者の寺田寅彦（1878-1935）の格言として知られています。しかし、これは勘違いでした。物理学者の中谷宇吉郎（1900-1962）が1938年7月9日の朝日新聞に勘違いして記載したそうです。その誤りを後に中谷先生も自身の随筆で認め、「もともとこの言葉は、書かれたものには残っていないが、寅彦の言葉にはちがいないのであるから、別に嘘をいったわけではない。（中略）それでこれは、先生がペンを使わないで書かれた文字であるともいえる。」と述べています。寺田寅彦著の「天災と国防」に格言と同じ内容が記載されているそうです。

一方、文字で伝える教訓もあります。先人たちは過去に発生した自然災害の様子や教訓を後世に忘れず伝えるために、石碑等の自然災害伝承碑を被災場所に建立してきました。災害碑には過去に発生した自然災害に関する発生年月日、災害の種類や範囲、被害の内容や規模の情報が文字として刻まれています。

北海道でも地形・地質・気象等の自然的条件から、過去から多くの地震・火山噴火・洪水等の自然災害に見舞われてきました。インターネットで地理院地図を検索すると、道内34箇所（※）の災害碑を閲覧することができます。ただし、小生の文献調査によると、この他にも50箇所程度の災害碑がありそうです。

自然災害は同じ場所で繰り返し発生する傾向にあることから、災害碑の情報を広く収集し分析することは過去の災害への理解を深め、現世において防災計画立案に役立ちます。想定外の災害を減らすためにも必要な調査と思います。小生が所属する学会では、道内の災害碑の調査に取り組み始めました。今後、これらの災害碑については、機会があれば皆様にご紹介していきたいと思っております。

（防災地質チーム上席研究員 倉橋 稔幸）

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。